

作成: 芝崎

85. 思い出篇: お風呂に関する話

- (1) 最近の朝日俳壇に「ふるさとは五右衛門風呂に虫の声」という俳句があり、なつかしさが甦る。
- (2) 学生時代に[約 50 年前?] 五右衛門風呂に2度入ったことがあった。共に田舎。1 度目は蓋を下げて敷板として入り、2 度目は下駄をはいて入る風呂だった。最近の俳句ゆえ、未だ五右衛門風呂があることに驚いたが、今でも製造している会社もあるようでびっくり。保温性がよく、鉄分が溶出して、血行循環に効果ありとのことで再評価されているようだ。
- (3) 2 度あることは 3 度あるのではと期待したい 🍵。 五右衛門風呂に入った時はちょっと五右衛門の気持ちになったが、外壁に触れると飛び上がるほど熱い。これで処刑されるのは辛い、なんで、釜茹の刑: 時の権力者の秀吉の財宝を盗み、逆鱗にふれた模様。(見せしめ、真実は? 所説あるようだ) 庶民には人気で盗賊というより義賊のイメージ 🍵。

五: 五臓六腑を熱さに伴いしみわたる(ゆでられる)

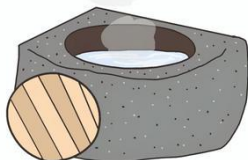
右: 右、左、前、後から; 四方八方から熱の攻撃から逃げられず

衛: えっ、と驚く、処刑方法でまさに見せしめか

門: 門外不出の貴重な品を盗み出したことが、前人未踏の方法で処刑された

➡ 五右衛門が存在しなければ、五右衛門風呂は生まれず。今日まで、風呂、及び義賊として、歌舞伎の世界を盛り上げた事に石川五右衛門はおおいに貢献したことは大きい。反骨精神があるのであろうかとうとう【滔々】とぞくぞくする気持ちに繋がっている気がする 🍵。

五右衛門風呂



以上